

## 教員活動状況報告書

提出日：令和 6年 3月 1日

所 属： 獣医 学部 動物応用科 学科

氏 名： 大木 茂 職位： 教授

役 職：

## I ティーチング・ポートフォリオ

## 1. 教育の責任（教育活動の範囲）

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	10
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	10
科学の伝達	動物応用科学科	必修	4	9
動物資源経済学	動物応用科学科	必修	2	146
経済学	動物応用科学科	選択	1	51
動物資源経済学演習	動物応用科学科	選択	4	8
スタディ・スキルズ	動物応用科学科	必修	1	175
動物応用科学実習	動物応用科学科	必修	1	168
牧場実習	動物応用科学科	選択	2	77
キャリア形成	動物応用科学科	必修	2	140
基礎ゼミ	動物応用科学科	必修	1	173

専門ゼミ：卒業論文に生かすため、専門文献(日本語/英語)の輪読を行っている。時期ごとに卒業論文の中間報告を行ない、Q&Aにより問題意識の明確化、知識の正確性を高めた。卒論発表会をプレゼン技術向上目的にポスターで行い視角で自身に振り返りを行っている。

卒業論文：卒論生一人一人個別のテーマを設定し、科学の伝達の時間帯を含め個別に指導をしている。問題意識、構成、オリジナル調査・統計分析の指導、数次にわたる提出と朱入れをとおして、完成版の提出に至る。一人一人に問題意識を深めていけるようなアドバイスを心がけた。卒論発表会をプレゼン技術向上目的にポスターで行い視覚で自身に振り返りを行わせた。

科学の伝達：卒業論文に関する問題意識の深め方について主にゼミの時間帯で専門書輪読を通じて指導した。就職活動などで欠席するときは、事前にレジメを提出し、朱入れするなどおこない、就職活動が卒業研究の妨げにならないようにした。

動物資源経済学：2年前期の必修であることから、就職活動に寄与できる内容の伝達に心がけた。動物と食・農・環境との関わりを伝え、動物が人々の暮らしや経済活動とどのように関わるのかを示すことを心がけた。幅広い知識の理解/修得を最も重視している。一方で、経済学的な概念を可能な限り紹介した。

経済学：1年後期の選択である。動物に興味を持って入学しているため、動物、とりわけ産業動物の経済学

と食や健康、環境のつながりの理解、世界的に関心の高まるアニマルウェルフェア配慮とその食品の展開を紹介し、俯瞰的に社会を見ることの重要性をしめそうとしている。

動物資源経済学演習：中山間地域における獣害対策を契機に地域振興を行なう島根県美郷町で現地合宿を行い、地域問題を理解し、そこでの獣害対策・地域振興の取り組みを理解しようとした。こうして問題発見、課題設定、問題解決、そのための総合的な知識／情報／資源の活用などの重要性を認識／理解することで、キャリア形成、キャリアチェンジ能力を養うことを目的とした。

スタディ・スキルズ：1年前期必修である。大学での学習方法や必要とされる力について演習方式で学ぶ。具体的には、①レポート・論文の書き方などの文章作法、②ノートの取り方、③プレゼンテーションやディスカッション、ディベートなど口頭発表技術、④論理的思考や問題発見・解決能力、⑤時間管理・学修習慣、等を身につける。学生にテーマを10程度提示し、自分の興味に合わせたテーマでの上記課題に取り組んだ。これまでと異なる文章の作成に方法などを学ぶことで、大学時代のみならず、今後に生かせる力を身に付けてもらう目的である。

動物応用科学実習：1年前期必修である。動物応用科学科は、研究室により扱う動物も大動物から実験動物を含む小動物と幅広く、講義も畜産学から動物介在活動や野生動物まで幅広いが、家畜を扱う学問が基礎であることを理解する。この実習で行われる搾乳や給餌など家畜管理を通して、動物と人間と環境の関わりを考える能力を養う。

牧場実習：牧場での実習により、産業動物のハンドリングを詳細に理解する。また産業動物の経営に必要な資源、施設、資金、仕事の広がりなどを学ぶ。動物応用科学科で2-3-4年次に学んでいく内容に参考となる貴重な体験を積むこと、そしてそのよりよい生かし方について考察を深める。

キャリア形成：2年後期必修で社会調査論と併せて単位を構成している。将来の就職活動を有意義に行う為に、キャリアに関する考え方、動物応用が関係する仕事の内容などを学び、目的意識を高めることを目的とする。なかでも「卒業生との交流会」を開催することで、学科の先輩から仕事や就職活動への心構えを聞くことで就職活動に向けた準備をおこなう。

基礎ゼミ：1年後期の必修。概ね8人ずつ4クールを受け持つ。勉強と研究の基本は、文章を正確に深く理解することであると考えて、専門につながる一般的な書籍を輪読し全員発表をしてもらっている。文章が読み込めていない事例が少なくないので、報告を聞きながら内容の確認をすることで、読み取れていない点を減らしていくことで基礎的学習力の強化を図っている。

## 2. 教育の理念（育てたい学生像、あり方、信念）

学生一人一人が自分の興味について認識し、その興味をくじけることなく追求し続ける持久力と深く追求していける探求力をもった主体性のある学生を育てたい。理科系学科で社会科学を教える意義としては、将来にわたる職業生活の中で、新しい事柄にチャレンジしていけるような興味の広さ、そして興味を持ったときにこれまでと異なる分野でも深めていけるような穴のない基本的学力の獲得、深く探求していける思考力と実行力を持てるようになるにはどうしたいかを考え教育を行っている。

また高校までの勉強と大学での勉強の意味の違いを認識し、考え方の幅の存在と考え方

の違いを踏まえて、自分の考えの形成・新たな課題の発見に役立つことを心がけている。また知識や能力があってもそれをどのように生かすかを間違えないようにすることも同じ程度重要であることも示すようにしている。

### 3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

理念を実現するには、第一に姿勢が重要である。可能な範囲で主体的な自発性に依拠した教育を行うことを重視している。そして毎回の授業への復習課題を課すことで勉強・学問・課題に向き合う姿勢の形成を試みている。

第二に、教育の向上という点から、学生の要望に対応すると同時に、まずは多くの知識を理解し吸収できるように、授業資料を多く提供し、深くあるいは細部を丹念に理解しようと試みることを可能にしようとしている。

第三に、質問・疑問に関しては、次回授業や追加スライドにより理解定着を図る。そのことで授業進行に支障が出たときは、資料の補足により対応している。

第四に、授業参加により、将来の進路を考える上で参考になるような、視野を広げられるような内容提供を重視している。

当研究室の専門性である、経済学・動物資源経済学においては、上記に基づいて、毎回の授業に関し理解度確認の復習テスト、授業内容の要点を整理したノート(レポート)、そして自由レポート(枠外の評価)により、自主性・主体性を喚起し、ステップを踏んで理解を進められるようにしている。又フィードバックとしては、復習テストの解説を次回の授業で行うことで、理解定着を図っている。

#### アクティブラーニングについての取組

例えば、経済学、動物資源経済学では、授業課題として毎回、授業で学んだことを整理しレポートとして課した。このことで授業で学んだことの復習効果が得られる点で効果があったと考えられる。

#### ICTの教育への活用

経済学、動物資源経済学では、パワーポイントを利用した説明とした。これは、授業しながら文字を書き込みつつ解説を加えることで、理解を強化することが可能になったと思われる。なおスライドは授業前と、加筆した上行後の2パターンを学生に提供することで、復習に役立てられたと考える。ただし、授業中の対面での質問などは、促すだけではでにくかったので、授業内容と合わせて、質問の出やすい方法を考える必要もある。

### 4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

#### ①教育（授業，実習）の創意工夫（B）

動物応用科学実習は、2022年度より学内実習を中心に酪農実習を宇都宮大学農場で行い、くわえて採卵養鶏企業見学を実施している。多様な実習を組み合わせることにより学生に

とって満足度は高かったと思われる。

牧場実習は、コロナ明けで履修者が70名台に留まったが、大きな問題もなく終了することができた。とくに獣医学科と共通の牧場では、他学科の学生とのふれあいにより、実習への取り組み姿勢や関心の点で新しい発見の機会になったと思われる。

スタディ・スキルズは、高校時代に対面に慣れていないと思われるなかで、対面により学習効果が高かったと思われる。

### ②学生の理解度の把握 (B)

動物資源経済学、経済学において、毎回の小テストで理解度を測っていたが、なかなか点数が上がっていなかった。理解してほしい教員と、そこまで興味を持ちきれずにいる学生のギャップを感じる。教養的な内容には、あまり興味を示さないのか、興味を引くような授業ができていないのか反省点は多い。ある意味で、質問を仕向けることで、そこから興味を喚起していくような手法も検討しなければならない。その一方で、知らないことは、ある意味罪深い事柄もあると感じてもらえるといいと思っている。

### ③学生の自学自習を促すための工夫 (B)

動物資源経済学と経済学では、とにかく伝えることを伝えながら、昨年の反省を踏まえて、できるだけ学士絵に意見を述べさせるような復習課題を出した。意見を述べさせると、あながち聞いていないと言うことも無く、関心もないわけではないことが把握できるようになったので、知識と考える力をバランス良く実現できる工夫が必要であると感じた。

### ④学生とのコミュニケーション(質問への対応等) (C)

経済学・動物資源経済学では、できるだけ内容の質疑応答などを取り入れたかったが、うまく実現できていない。学生の内容に関する基礎知識不足を強く感じるものの、問いかけていくことでようやく問上げ始めるという点も重視して行きたい。

専門ゼミなどでは、確かな関心のある事柄についてのコミュニケーションは個別対応を行う中で十分にとれているものの、学生個々の知識に対する欲求が弱いと感じられる点がある、この点について、何としても明らかにしたい、という意欲を喚起するにはどうすればいいかを考えないとならない。

### ⑤双方向授業への工夫 (C)

リアルタイムで行うことを重視した。そうでなければ意欲的に授業に参加する姿勢が養われなくなってしまう。知識を蓄えるための授業を、それを踏まえて考えて新しい発想につなげていく内容に変えていかないと情報過多の時代に、学生が主体的に学びたいという科目でなくなってしまうような不安を感じている。

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科， M 学科の教員の方のみ記載してください。）

## 5. 学生授業評価（分量の目安： 4～7 行（160 字～280 字））

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

・配付資料が多すぎる・難しい：できるだけ内容を厳選して学生には提示するように心がけた。ただし、意見が分かれている問題をそれぞれ根拠を含めて理解を促すには資料は増えてしまう。その点を理解してもらうような説明が不足していたかもしれない。また難しいという点は、余りはっきりと言い切れない問題が少なくないことに起因していると思われる。物事の単純化は、学問において、特に社会科学において大きな問題を生じることもあるので、その点の理解を図ることも工夫が足らなかったかも知れない。

・理解させようとする授業になっていない：個々の予備知識や関心の度合いが異なるので、少し触れるだけにとどめたり詳しく解説したりという区別が難しく、加えて限られた時間でという制約もあり、難しさを克服できていない。一定の予備知識があることを前提に話しているが低い評価も出てくる。

・事実と個人の意見を見極めるのが難しいときがある：資料や発言のさいに、個人の意見、とことわって述べるようにしている。ただしそもそも事実は何かを知ることとはとても難しいことが大部分である。その難しさを理解することが、学ぶことであることを踏まえると、難しいから確かな事実を手に入れるにはどうしたらいいか、を考えていける授業にしていきたい。

② ①の結果はどうでしたか。

説明を行うが、繰り返し同じ指摘を受ける。学生とのコミュニケーションのなかで対応も検討を進める予定である。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

上記に記載の通りに進めていく。

資料の中から大切なものがすぐに参照できるように指示を出したい。ただし、大事なことを教員が示して、それを覚えるだけの学生を作ることは意味がないので、自分で大事なことは何かを考えることができるようにしたい。情報は山ほどあり、大事なことは沢山もれている。そこから、自分の切り口で大事なことを探しだせる様な力をつけてもらえるような指導を考え出したい。

## 6. 学生の学修成果（分量の目安：4～7行（160字～280字））

### ① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか

学生の成績向上は、私の担当する分野の本学での役割を考えると、ほとんど興味関心・意欲向上の実現と理解している。そのためには、幅広いコンテンツを用意して興味を持つことを促すことが最大の成績向の取り組みと考えている。できるだけ今、の流れを示して、今後を考えるように授業等は実施したい。

### ② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

「興味があるか、というところでもない分野だったのですが、身近なことも取り上げていただいて、全体的に興味を持ってきくことができました」「いろいろな話が聞けてためになりました。いつも先生の考えを話してくれるので聞いてて面白いです。」「一見バラバラにいろんなことを教えて頂いていると思っていましたが、よく見れば前回学んだことが繋がっていたりなどしており、物事を考えるには多くのことを知っておくべきだと思いました。この科目は社会に出たときに非常に役立つ科目だと思います」。全体的に授業評価が芳しくなっていたが、中には上記のように評価する声もあるので、基本は変えずに、改善すべき点を一つ一つ改善していきたい。

## 7. 指導力向上のための取組（FD研究会参加状況）（分量の目安：1～2行（40字～80字））

2023年1月20日 FD研修会 デジタルマッピング

2022年11月28日 FD研修会 講義科目における成績評価

2022年9月14日 FD研修会 授業目的公衆送信補償金制度に関する利用報告

2022年3月10日 FD研修「麻布大学のデータサイエンス教育」

2022年3月25日 FD講演会『2021年度授業に関する説明及び授業デザイン』

## 8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

### 短期目標

半分以上の学生から考える上での参考になった、という授業をしたい。

できれば1割ぐらいの学生からは、私の示した事実・論理に、それは間違いではないですか、あるいは私は異なる考えです、といった意見を示してもらえるような授業になりたい。

そのためには、技術的に、授業内容の効率的時間配置を行い、多様な教養的情報とその情報検索方法を知ってもらうようにしたい。

### 長期目標

STEM から STEAM にという教育のトレンドがあるが、A はリベラルアーツであり、人間を自由にさせる技の一つとして経済学的な見方を提供し世の中の課題発見・解決策提示を行うことが目的で、経済学的な見方を学んだ学生が、産業動物の経済に関して、興味を持

ってそっつろんい取り組むようにしたい。

#### 9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

動物資源経済学シラバス

経済学シラバス

●FD 研修事後課題（ピアレビューによるブラッシュアップ）の実施

有・無

該当を○で囲む

●下線部以外は今回新規追加した事項を示す。

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

1. 授業に関するもの

シラバス，小テスト，宿題，レポート課題，試験問題，教材（配布資料，パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

（教育に直接貢献する研究，FD プログラムなどへの参加記録，教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等），教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

1. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評，作成教材についての意見，同僚のサポート実績

3. 大学／学会等から

教育に関する表彰，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類，カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化，学生の小論文・報告書，学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例，特に優秀な学生についての記録，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，学生のレポートの改善の軌跡